

経営学部の自己点検・評価 ― 学部教育の体系と課題

経営学部長 照屋 行雄

神奈川大学経営学部の現行カリキュラム体系と目標達成のための基本課題を、教育課程および教育方法に分けて自己点検・評価すれば、次のようなことが指摘できる。

第一に、教育課程についてである。本学部は、学部創設の理念に基づきその教育目標を実現するために、合理的な教育課程の編成と各種の有効な教育プログラムを構築している。カリキュラム体系の編成では実に多数の授業科目が設置され、豊富な研究業績と実務経験を有した多彩な教員組織によって、計画的・組織的に学部教育が運営されている。多様で複雑な「国際経営」の領域を、効率的に選択・履修するための制度上の学修支援システムとして、5コース制を採用している。すなわち、「マネジメントコース」、「会計コース」、「経営環境コース」、「国際コミュニケーションコース」および「スポーツ&マネジメントコース」の5コースから構成されている。

本学部の教育目標を合理的に実現し、コース制のもつ教育効果を測定しつつ、本学部独自の特色ある教育を目指すためには、具体的には次のような基本課題に取り組まなければならない。

- ① 現行の1学科5コース制という学部の制度的枠組みの再検討を行うこと
- ② 各コースの教育目標を達成するために適切なカリキュラム体系の確立をはかること
- ③ 副専攻制の導入により学生の学修範囲の拡大をはかること
- ④ SA（スタディー・アブロード）プログラムの推進と海外大学との提携を発展させること
- ⑤ 外国語教育の充実をはかり、学生の語学実践能力を強化すること
- ⑥ インターンシップ・プログラムなどの実習教育を充実し、学生のキャリア開発を支援すること

第二に、教育方法についてである。本学部における教育方法については、次の3点をより充実させることが課題となる。

- ① 入学前教育の実施に連動して、入学後の導入教育の強化、オリエンテーションの拡充、単位不足者に対する特別学修指導、オフィスアワーの活用など教育支援を強化すること
- ② 学生の自発的成長をサポートするため、学術論文の作成、研究成果の発表、メディア教材の共同制作などの各種活動を支援すること
- ③ 学部教育の質の向上を目指して、「学生による授業評価アンケート」の活用、専任教員間の教育経験交流の推進、非常勤教員との教育協力などを積極的に実施すること

学部学科の教育改革を推進するためには、現状の点検と評価を通じて問題点の摘出と課題の整理が基礎となる。その上で、教育環境の変化を踏まえた将来の教育ビジョンを明示することが求められる。神奈川大学経営学部では、本学の創立100周年に向けての将来構想を見据えて、学部発展のための基本構想（マスタープラン）の策定が急がれている。